

2023年度
看護栄養交流センター
成果報告書
(第5号)



島根県立大学
出雲キャンパス

はじめに

看護栄養交流センターは、保健師、助産師、看護師、管理栄養士、栄養士などの専門職を対象とした活動と、看護学・栄養学の教育研究活動を通して得られた知見を、広く地域住民の方に還元していく活動を大きく二つの機能として備えています。

地域住民の方に還元していく活動としては、公開講座、ぎんざんテレビ出前講座、小中高校などの出前講座や体験学習、いずも健康市民大学などを実践しており、2023年度の公開講座の参加者は72名、いずも健康市民大学の参加者は24名でした。また、小中高校などの出前講座では島根県助産師会と連携し、小学生を対象としたバースデープロジェクトの講師を多く務め、性（生）の健康教育に貢献しました。出雲市との共同事業として、介護予防教室を新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら継続しました。また、次年度は浜田市、益田市でも生活習慣病予防をテーマとした公開講座を実施する予定です。

専門職の教育力・研究力・実践力向上に向けた支援としては、看護教員継続研修や実習指導者講習会を開催しました。また、看護の実践力向上を目指してシミュレーション研修や病院の看護研究支援や栄養学の研究支援・研修会も実施しました。

認定看護師養成部の活動では、感染管理のB課程を開設し、島根県内病院を中心として19名の受講生が入学し、講義、演習、実習と充実した研修を続けています。

また、益田において高校生と大学生、地元の病院の看護職をつないだ高大社連携セミナーを開催し、高校生に大学での学びや看護実践を知ってもらい、キャリアデザインに役立ててもらおう活動をしました。今後、高大社連携セミナーを積極的に取り組んでいきたいと考えています。モニター会議は、コロナ禍では書面開催としていましたが、今年度は対面開催することができました。

しまね看護栄養交流センターでは、専門職の学び直しに向けて新たに履修証明プログラムの実施を開始するなど、常に時代に合った内容・方法で地域貢献や専門職の方への教育研究支援に取り組んでまいります。どうか地域の多くの皆様に本キャンパスの地域連携活動の取り組みの一端をご高覧いただき、ご批評を賜りますようお願い申し上げます。

2024年3月

副学長 石橋照子

センター長 挨拶

平素から看護栄養交流センターの活動には温かいご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。私たちの社会生活のあり様を一変させた新型コロナウイルス感染症は、2023年度5月に5類感染症に移行になりました。ここ3年間、看護栄養交流センター事業は規模縮小やオンライン対応等、様々な感染症対策を駆使しながら実施してまいりましたが、今年度は感染対策を図りながら徐々に事業展開を拡充いたしました。

「看護栄養交流センター」は、地域と大学の橋渡しをすることを目的とし、大学がもつ資源を活かして地域のニーズに応え、地域と協働することを使命として活動しています。センターには、キャリア・研究支援部、地域連携推進部、認定看護師養成部の3部門を設け、教職員全員が役割をもち事業を展開しています。

キャリア・研究部におきましては、現場の看護職及び管理栄養士・栄養士の実践力、教育力、研究力の向上に向けて事業を展開しました。実践力や教育力を高めることを目的とした研修事業や、研究力の向上を目的とした、研究に関する総合的な相談・支援等を行いました。2023年度は看護現場の教育力強化を目指す「島根県看護職員実習指導者養成講習会」の開催年（隔年開催）でした。27名の受講生を受け入れ、eラーニングと対面での授業計220時間12単位の教育課程を展開いたしました。専門職向けのもう一つの部門である認定看護師養成部においては、感染管理認定看護師教育課程【B課程】をスタートさせ19名の入学者がありました。所定の総時間801時間の講義・演習・実習における単位を取得し、修了並びに認定看護師資格取得試験に向け準備をしているところです。また、社会人の学び直し機会の拡充として文部科学省が推進している履修証明プログラムを始動し、今年度は2つのプログラムを提示しました。

地域連携推進部では「生涯学習」「教育機関との連携」「産公学連携」「広報・広聴活動」の4つの事業を展開しました。地域住民を対象とした「公開講座」「いずも健康市民大学」は、昨年度までは新型コロナウイルス感染症感染予防のため、オンライン形式の研修でしたが、今年度は対面開催とし多くの皆様に参加いただきました。「産公学連携」「広報・広聴活動」では、今年度「高大社連携事業」として益田地域における医療人材を確保する目的で、益田地域医療センター医師会病院や地元高校と連携事業を展開しました。依然感染対策には留意が必要ですが、新しい視点も取り入れながら事業の安定的展開を図っていきたいと思います。

今後、地域に信頼される大学をめざし、地域とのつながりを強化していきたいと考えております。皆様には一層の御支援・御協力を頂きますようお願い申し上げます。

2024年3月

島根県立大学出雲キャンパス看護栄養交流センター

センター長 梶谷みゆき

目 次

はじめに	1
センター長挨拶	2
2023 年度成果報告書	
I. 看護交流センターについて	5
1. 看護栄養交流センターの設置目的	
2. 事業概要	
3. 実施体制	
4. 看護栄養交流センター運営会議	
5. 看護栄養交流センター外部委員会	
II. 2023 年度事業実績	
1. キャリア・研究支援部	11
1) 実践力の向上	
2) 教育力の向上	
3) 研究力の向上	
4) 履修証明プログラム	
5) 保健・医療・福祉機関等との連携	
2. 地域連携推進部	29
1) 生涯学習	
2) 教育機関との連携	
3) 産官学連携	
4) 広報・広聴活動	
3. 認定看護師養成部	47
III. 資料	51

I. 看護栄養交流センターについて

1. 看護栄養交流センターの設置目的

看護栄養交流センターは、大学と地域をつなぐ拠点として2013年10月に前身の「島根県立大学しまね看護交流センター」を設置し、2018年4月に「看護栄養学部」が設置されるのに伴い、「島根県立大学出雲キャンパス看護栄養交流センター」（以下「センター」という。）と改称した。

島根県内及び近隣地域の保健・医療・福祉の各施設、行政機関、教育機関等と連携し、保健師、助産師、看護師、管理栄養士等の質の向上に資する専門知識や技術の教授、研究活動に対する支援、研究成果等の情報収集及び発信を行うとともに、看護学及び栄養学の教育研究活動を通して得られた成果を広く地域社会に還元することを目的に、大学と地域をつなぐ拠点として2013年10月に設置した。

2. 事業概要

センターには、「キャリア・研究支援部」「地域連携推進部」「認定看護師養成部」の3つの部を設置し、大学の機能を活かした地域貢献活動を推進している。

1) キャリア・研究支援部

専門職（看護職、管理栄養士、栄養士）のキャリア形成、研究活動の支援ならびに研究成果を広く社会へ還元するため、以下の4つのプロジェクトを展開している。

①実践力の向上、②教育力の向上、③研究力の向上を目的とした研修事業、④保健・医療・福祉機関等への講師派遣、⑤キャリアアップを志向する社会人の学び直し等

2) 地域連携推進部

健康と看護をめぐる地域社会のニーズや課題に応え、地域と協働し、地域に開かれた大学を実現するため、①公開講座等の地域住民の生涯学習を支援する事業、②小中学生を対象とした出前講座や体験学習、③産官学連携、④地域の声を大学運営に活かすための広報・広聴活動等、幅広い活動を行っている。

3) 認定看護師養成部

緩和ケア分野及び認知症看護分野の教育課程は2020年度から休講中であったが、新たに島根県からの要請を受けて2023年度に特定行為研修を含む感染管理B課程を開講した。

3. 実施体制

本センターは、島根県立大学看護栄養交流センター組織運営規程に基づき運営する。

1) センター構成員

センターの構成員は、出雲キャンパスに所属する全ての専任教職員である。センターには、以下の職員を置く。

(1)センター長：1名（兼務）

(2)部長：3名（兼務）

(3)プロジェクトリーダー：（兼務）

(4)プロジェクトスタッフ：部長・リーダーを除く専任教員

(5)管理課地域連携推進室職員：2名（兼務）

表1 2023年度看護栄養交流センター事業担当者

部 (部長)	プロジェクト名 (プロジェクトリーダー)	事業名		担当 ○主担当	
キャリア・研究支援部 (高橋梢子)	実践力の向上 (高橋梢子)	シミュレーション研修1 「静脈注射」 (島根県看護協会連携事業)		○佐藤美紀子 加藤さゆり 松本祐香 鉦貴裕	
		シミュレーション研修2 「フィジカルアセスメント」 (島根県看護協会連携事業)		○横山敦美 佐藤基 安部史子 園山純代	
		シミュレーション研修3 「看護職のための新生児蘇生法 『専門』」		○植田恵 狩野鈴子 井上千晶 永井真寿美 濱村美和子 石原愛弓	
		助産師キャリアラダー研修 (島根県助産師会共催事業)		○中谷陽子 狩野鈴子 植田恵 石原愛弓	
		地域・在宅看護学研修		○加藤典子 阿川啓子 吉松恵子 板持智之	
		SP派遣		○松本玄智江	
	教育力の向上 (高橋梢子)	実習指導者養成講習会 (島根県委託事業)		○高橋梢子 加藤典子 日野雅洋	
		実習指導者フォローアップ研修 (島根県委託事業)		※隔年開講のため 2023年度は休講	
		看護教員継続研修 (島根県委託事業)		○高橋梢子 園山純代 松谷ひろみ 荒木さおり	
	研究力の向上 (石田千津恵)	臨床看護研究計画書立案研修		○佐藤基	
		研究に関する相談・支援窓口			
		個別研究支援	看護	○佐藤基	
			栄養	○石田千津恵	
		共同研究	看護	○佐藤基	
			栄養	○石田千津恵	
		栄養学研究支援研修 (島根県栄養士会連携事業)		○石田千津恵	
	履修証明プログラム (梶谷みゆき)	履修証明プログラム構築の促進と受け入れ体制の整備		○梶谷みゆき	
	保健・医療・福祉 機関等との連携 (佐藤基)	保健・医療・福祉機関等への講師派遣		○石田千津恵	

部 (部長)	プロジェクト名 (プロジェクトリーダー)	事業名	担当 ○主担当
地域連携推進部 (落合のり子)	生涯学習 (落合のり子)	公開講座 (一般対象・関係機関との連携講座)	○落合のり子 園山純代 石田千津恵
		地域・団体主催による出前講座	
		ぎんざんテレビ出前講座	
		シニア・ジュニア キャンパスツアー	
	教育機関との連携 (落合のり子)	高校生向け公開講座	佐藤基 石田千津恵
		小中高校等出前講義	○落合のり子 園山純代
		小中学校体験学習	
	産学連携 (梶谷みゆき)	出雲キャンパス支援ネットワーク事業	○梶谷みゆき 矢島史江
		包括協定締結自治体との連携	○梶谷みゆき
		受託研究・受託事業	○梶谷みゆき 澤田仁美
		NPO 法人・関係団体・企業等との連携	○佐藤基 的場好信
		各種審議会・委員会への参加	○梶谷みゆき
	広報・広聴活動 (落合のり子)	キャンパスモニター会議	○落合のり子
		県立大学発 健康寿命延伸プロジェクト in ますだ (島根県栄養士会連携事業)	○石田千津恵
		タウンミーティング (高大社連携事業)	○高橋梢子

部 (部長)	プロジェクト名 (プロジェクトリーダー)	事業名	担当 ○主担当
認定看護師養成部 (林健司)	認定看護師 リカレント教育	フォローアップに関すること	○荒木さおり 勝部真美枝 林健司
	感染管理 認定看護師 教育課程の運営	教育課程の運営に関すること	○勝部真美枝 林健司 坂根圭子 地域連携推進室職員

4. 看護栄養交流センター運営会議

島根県立大学看護栄養交流センター組織運営規程に基づき、学内の教職員を構成員とする島根県立大学看護栄養交流センター運営会議を開催し、センターの運営に関する事、事業計画の策定及び進行管理に関する事、その他センターの運営に必要な事について協議し、2023年度は2回開催した。

1) 看護栄養交流センター運営会議構成員

表2 看護栄養交流センター運営会議構成員

構成員	職名	氏名
副学長	教授	石橋 照子
看護栄養学部長	教授	大森 眞澄
看護学科長	教授	大塚 美樹
別科長	教授	狩野 鈴子
健康栄養学科長	教授	直良 博之
看護栄養交流センター長	教授	梶谷 みゆき
キャリア・研究支援部長	准教授	高橋 梢子
地域連携推進部長	准教授	落合 のり子
認定看護師養成部長	准教授	林 健司
地域連携推進委員会委員長	教授	(兼) 梶谷 みゆき
地域連携推進委員会委員	准教授	(兼) 落合 のり子
地域連携推進委員会委員	准教授	(兼) 林 健司
地域連携推進委員会委員	准教授	(兼) 高橋 梢子
地域連携推進委員会委員	講師	佐藤 基
地域連携推進委員会委員	助教	園山 純代
地域連携推進委員会委員	助教	石田 千津恵
事務部長		荒本 弘美
管理課長 (地域連携推進委員)		的場 好信
学務課長		飯島 久美子
事務局 (管理課地域連携推進室長・地連委員)		澤田 仁美
事務局 (管理課地域連携推進室・地連委員)		矢島 史江

2) 看護栄養交流センター運営会議開催状況

(1) 第1回センター運営会議

開催日：2023年5月2日（火） 11:00～11:40

場 所：Teamsによるオンライン会議

出席者：16名（1名欠席）

議 事：①2023年度事業計画・事業担当者について
②2022年度外部委員会意見に対する対応策について
③その他

(2) 第2回センター運営会議

開催日：2024年3月22日（金） 15:00～

方 法：Teamsによるオンライン会議

出席者：15名（2名欠席）

議 事：①2023年度外部委員会開催について
②2024年度事業計画について
③その他

5. 看護栄養交流センター外部委員会

島根県立大学看護栄養交流センター組織運営規程に基づき、センターの業務に関し、調査審議を行うため、外部委員会を開催し、センター事業について外部委員との意見交換を実施し、外部評価をセンターの運営および事業に反映する。2023年度は3月に郵送による書面会議にて開催した。

1) 看護栄養交流センター外部委員会委員

表3 看護栄養交流センター外部委員会委員

(50音順 敬称略)

所属・役職	氏名
島根県立大学短期大学部 名誉教授	飯塚 雄一
フリーライター	門脇 奈津子
島根県出雲保健所 所長	村下 伯
松江赤十字病院栄養課 課長 島根県栄養士会副会長	引野 義之
島根県教育庁教育指導課 指導主事	真玉 保浩

2) 外部委員会開催状況

開催日：2024年3月

方 法：郵送による書面会議

出席者：センター外部委員：5名

センター運営会議構成員：17名

議 事：①2023年度看護栄養交流センターの組織・執行体制について
②2023年度看護栄養交流センター事業について
③外部委員による調査・審議結果について
④その他

I-1. シミュレーション研修1：静脈注射

1. 目的

静脈注射を安全・正確に実施できる技術を修得し、看護職の実践能力を高める。

- ① 静脈注射の特性が理解できる。
- ② 静脈注射に伴う危険性、安全対策が理解できる。
- ③ 静脈注射の方法、そのエビデンスが理解できる。
- ④ シミュレーターを用いて安全に静脈注射が実施できる。

2. 事業内容：静脈注射の基礎：講義・演習

3. 事業実施状況

- 1) 日 時：2023年8月2日（水） 10：00～16：00
- 2) 場 所：島根県立大学出雲キャンパス
- 3) 講 師：佐藤 美紀子，加藤 さゆり，松本 祐香，鈿 貴裕
(島根県立大学看護栄養学部看護学科)
- 4) 対 象：復職検討中の看護職，介護福祉施設等でスキルアップを図りたい看護職
- 5) 参加者：5名

4. 成果

受講生の参加動機は「復職の際の技術の不安」「経験の不足」等であった。講義で静脈注射の基本事項を理解した上で、シミュレーターを用いて繰り返しトレーニングを行った。その結果、参加者からは「トレーニングで基礎を再学習し、繰り返し練習できたことで自信がついた」「離職後、長年のブランクがあったが、トレーニングを通して、昔の感覚を取り戻すことができた」「今後、看護職として働く機会があれば、自信をもって務められそう」等の肯定的な評価を得た。また、トレーニングの目的達成状況に対するアンケートでは、受講生全員から、トレーニングの目的を「達成できた」と評価を得た。これらの結果から、受講目的、トレーニングの目的達成を果たすことができた」と評価できた。さらに、「また機会があればトレーニングに参加したい」と、継続開催を期待する意見があった。



5. 課題

参加者のニーズに沿った研修を実施し、目的達成を果たすことができた。復職検討中の看護職，診療所や介護福祉施設等に所属する看護職においてはニーズの高い研修であり，今後も継続して開催する必要がある。

I-2. シミュレーション研修：フィジカルアセスメント

1. 目的

基本的なフィジカルアセスメント能力を身に付け、患者の状態を的確に判断し、看護を提供できる看護職を育成する。

2. 事業内容

フィジカルアセスメントの基礎を学ぶと共に、実践活用できる症状・徴候をみる力とそれを報告することを目標に、島根県看護協会との連携事業としての研修を実施した。

3. 事業実施状況

- (1) 日 時 : 2023年9月8日(金)
- (2) 場 所 : 島根県立大学出雲キャンパス
- (3) 講 師 : 島根県立大学看護栄養学部看護学科 安部史子, 佐藤 基, 園山純代, ○ 横山淳美
- (4) 対 象 : 復職を考えている看護職, 介護福祉施設等でスキルアップを図りたいと考えている看護職
- (5) 参加者 : 7名

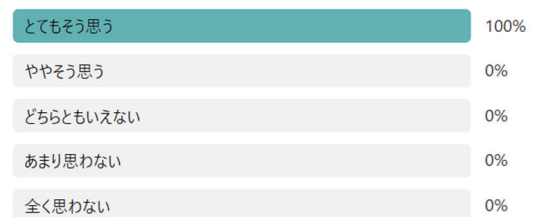
4. 成果

参加者の意見は以下であった。

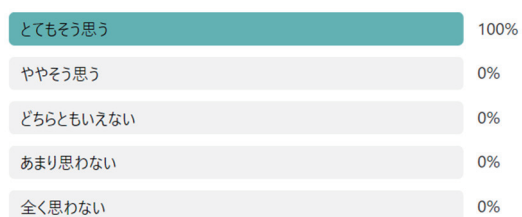
- 1) 参加者属性 : 30歳代1名, 40歳代1名, 50歳代5名
- 2) 講義について : 内容のわかりやすさ



内容は今後活かせるか



- 3) 演習について : 内容のわかりやすさ



内容は今後活かせるか

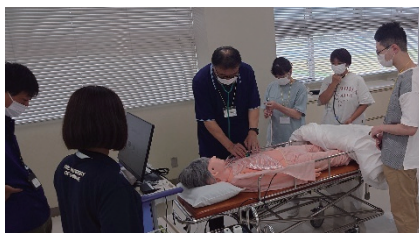


- 5) 研修への自由意見 :

- ・ なかなか泊りがけや2日も休みを取ることができないので1日で終わってよかった。
- ・ 自己肯定感がアップし、研修を受けて良かった。明日から頑張る気持ちになった。
- ・ シミュレーション研修I・IIを受講し、確実に自分が変わったと感じた。また学びたい。

5. 課題

参加者減少が続いていた本事業において、今年度は、前年度研修の意見を取り入れ1日研修の設計とした。本研修内容における受講生の評価は、肯定的意見が多いことから高評価を得たと判断する。次年度も1日研修とし、経時的に研修評価に応じた研修を企画していくこととする。



II. 助産師キャリアラダー研修

1. 目的

助産師の助産実践能力を高め、ラダーに応じた知識や技術のブラッシュアップを図る。

2. 事業内容

助産師の卒後教育として「CLOCMiP（助産実践能力習熟段階）レベルⅢ」申請，または再申請用のプログラムを提供する。

3. 事業実施状況

1) 日 時：2023年9月15日（金）正午～10月31日（火）正午

2) 方 法：オンデマンド配信（講義は対面実施したものを配信）

3) 内 容：講演

テーマ「妊婦と新生児・乳児を守るスキンケアの基礎知識」

講師 山田皮膚科医院 院長 山田義貴 氏

「CLOCMiP（助産実践能力習熟段階）レベルⅢ」選択研修

4) 対象：助産師

5) オンデマンド申込者：102名

6) 対面受講：学生12名

7) 修了者：82名（県外助産師34名，県内助産師48名）

4. 成果

島根県助産師会研修会と共同で開催した。昨年度に比べ申込者が多かった。近年，新生児・乳児のスキンケアの重要性が注目されており，興味のある内容であったと考える。オンデマンド配信にて実施し，「CLOCMiP（助産実践能力習熟段階）レベルⅢ」申請・再申請に寄与した。

5. 課題

助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー/CLOCMiP®レベルⅢの認証制度の「選択研修」は，受講時間が150時間と多く受講ニーズの高い研修である。広く参加者を募り，効果的に広報を行うためにも今後も助産師職能団体との共催での計画を検討する。

Ⅲ. SP 派遣

1. 目的

島根県内に従事する看護職等が、場に応じた的確な臨床判断、確実な援助行為が行えるよう、臨床現場におけるシミュレーション教育を支援するための環境の整備を行う。

2. 事業内容

本学の SP（模擬患者）養成講座を修了した SP の派遣・調整を行う。また、医療施設においてシミュレーション教育を実施する際、模擬患者派遣に関するサポートを行う。

3. 事業実施状況

科目名等	月日	人数
感染管理認定看護師教育課程：医療面接（OSCE）	2023年5月1日	3名
看護学科：基礎看護統合実習（事例）	2023年6月19日	4名
	2023年6月26日	3名
	2023年7月3日	5名
看護学科：看護総合演習Ⅰ（事例）	2023年5月16日	6名
	2023年5月23日	3名
	計	24名

4. 成果

看護栄養学部看護学科の演習、ならびに感染管理認定看護師教育課程の OSCE に模擬患者を派遣することができた。SP 参加による演習に対しては学生からも高い評価が得られた。また、感染管理認定看護師教育課程では医療面接の OSCE にも派遣することができ、適切な評価の実施につなげることができた。

5. 課題

COVID-19 が感染法上の 5 類感染症に位置付けられてから、学部の演習等においても SP を活用した演習が COVID-19 以前に戻り、擬患者派遣の需要は高くなることが予測される。引き続き安定した SP 派遣ができるように準備していく必要がある。安定的な SP 派遣が継続できるために、本学の SP（模擬患者）養成講座の充実と修了者のフォローアップを行い、SP の質の維持・向上が課題である。「しまね模擬患者の会」と連携して事業を実施していくこととする。

I. 島根県看護職員実習指導者養成講習会

1. 目的

看護師等学校養成所の実習施設において実習指導を担当する者又は将来実習指導者となる予定の者が、看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるよう、必要な知識・技術を修得させ、もって実習指導者の資質の向上と看護実習の強化を図ることを目的としている。

2. 事業内容

島根県より「島根県看護職員実習指導者養成講習会実施事業」の委託を受け、厚生労働省の保健師助産師看護師実習指導者講習会の実施要綱に基づきカリキュラムを作成し実施した。(次ページ参照)

3. 事業実施状況

- 1) 日 時：2023年5月10日(水)～2023年9月7日(木)
- 2) 場 所：島根県立大学出雲キャンパス
- 3) 参加者：島根県内の病院の看護職 27名(17施設)
- 4) 講 師：次ページ参照

4. 成果

今年度は17施設27名から受講申請があり、120時間のeラーニングと1か月間の対面での講義・演習を終え、27名全員に修了証が授与された。アンケート結果によれば、プログラムの内容、運営、活用度についてはおおむね良好であった。eラーニングは自分のペースで繰り返し視聴できることもあり、実習指導に必要な知識の習得ができたと考える。

指導案作りでは、希望をとり4～5名グループで編成したところ、成人2グループ、精神1グループ、老年2グループ、基礎1グループ、小児・母性0グループであった。演習は短い期間で実習指導案を作成するものであったが、全員が熱心に取り組み、対話を重ねながら、実習指導者としての役割の理解、資質の向上が図れたと考える。

5. 課題

eラーニングについては「難しかった」「長い」と言った回答が複数あった。eラーニング中に通常勤務が重なると、受講生への負荷が大きい。引き続き、参加施設の管理者への理解を求める必要がある。指導案作成にあたっては、フォーマットがあると嬉しかったという意見があったが、演習担当教員に前回の指導案を渡しておき、受講者がこれまでのものを参考にできるとよいと考える。

プロジェクト名：教育力の向上

令和5年度島根県看護職員実習指導者養成講習会日程表					
月日	曜日	授業科目		開催場所	実施方法
		9:00～12:10 (8:30～12:10)	13:10～16:20 (13:10～17:15)7.5H		
5月10日	水	開講式・オリエンテーション ／島根における地域医療の現状と展望			対面
5月17日(水)～ 7月28日(金) (120時間) eラーニング受講期間		(教育原理)	15時間		この間、学習スケジュールは自由
		(教育方法)	15時間		
		(教育心理)	15時間		
		(教育評価)	15時間		
		(看護論)	15時間		
		(看護教育課程論)	45時間		
8月7日	月	実習指導概論(岡安誠子)	実習指導計画①(岡安誠子)	209講義室	対面又は オンライン
8月8日	火	実習指導計画②(岡安誠子)	実習指導の評価①(川瀬淑子)	209講義室	対面又は オンライン
8月10日	木	実習指導の評価②(川瀬淑子)	実習指導の評価③(川瀬淑子)	209講義室	対面又は オンライン
8月17日	木	実習指導の実際①(急性期)(渡邊克俊) ②(慢性期)(佐藤美紀子)	実習指導の実際①(老年)(松本玄智江) ②(基礎)(高橋梢子)	ラーニングコモンズ	対面又は オンライン
8月18日	金	実習指導の実際①(精神)(松谷ひろみ) ②(在宅)(阿川啓子)	実習指導の実際①(小児)(高橋恵美子) ②(母性)(井上千晶)	ラーニングコモンズ	対面又は オンライン
8月21日	月	オリエンテーション／実習指導案作成演習	実習指導案作成演習	ラーニングコモンズ	通学
8月22日	火	実習指導案作成演習	実習指導案作成演習	ラーニングコモンズ	通学
8月23日	水	実習指導案作成演習	実習指導案作成演習	ラーニングコモンズ	通学
8月24日	木	実習指導案作成演習	実習指導案作成演習	ラーニングコモンズ	通学
8月25日	金				
8月28日	月	実習指導案作成演習	実習指導案作成演習	ラーニングコモンズ	通学
8月29日	火	実習指導案作成演習	実習指導案作成演習	ラーニングコモンズ	通学
8月30日	水	実習指導案作成演習	実習指導案作成演習	ラーニングコモンズ	通学
8月31日	木	実習指導案作成演習	実習指導案作成演習	ラーニングコモンズ	通学
9月1日	金				
9月4日	月	実習指導案作成演習	実習指導案作成演習	212.216.220～224演習室	通学
9月5日	火	実習指導案作成演習	実習指導案作成演習	212.216.220～225演習室	通学
9月6日	水	指導案発表会	指導案発表会	ラーニングコモンズ	通学
9月7日	木	まとめ	14:00～閉講式・修了証授与	ラーニングコモンズ	通学

II. 島根県看護教員継続研修

1. 目的

看護教員のキャリアアップを支援する事業として、看護教員としての資質・能力の向上を図り、看護基礎教育の一層の充実を図る。

2. 事業内容

島根県より「島根県看護教員継続研修」の委託を受け、研修会の運営・実施（企画担当／県）を行った。研修は、全ての看護教員を対象とした『組織力を高める研修』、『教育力を高める研修』を実施した。

3. 事業実施状況

組織力を高める研修

- 1) 日 時：2023年8月5日（土）・8月6日（日）10:00～16:00
- 2) 場 所：石中央文化ホール
- 3) 講 師：三浦 友里子氏（聖路加国際大学大学院）
- 4) テーマ：「臨床判断モデルの看護基礎教育への適用，思考発話への展開」
- 5) 対 象：島根県の看護教員
- 6) 参加者：看護教員 23 名

教育力を高める研修

- 1) 日 時：2023年9月2日（土）・9月3日（日）10:00～16:00
- 2) 場 所：島根県立大学出雲キャンパス 217 講義室
- 3) 講 師：内藤 知佐子氏（愛媛大学医学部附属病院 総合臨床研修センター）
- 4) 「能動的な学習を促すシミュレーション教育の実践に向けて」
- 5) 対象者：島根県の看護教員
- 6) 参加者：看護教員 17 名

4. 成果

両研修とも講義およびグループワークがあり、実践にすぐに役立てられる構成としてくださった。そのため、両研修共に受講者全員が「満足，やや満足」としており、研修内容は今後の教育に活用できると回答していた。このことから、満足度と有用度はともに高い研修であったと考えられた。

5. 課題

運営の課題として、土日2日間を同じ時期に2回あることで、参加のしづらさがあった。開催方法について、今後検討の必要がある。

Ⅲ. 出雲市 児童虐待防止推進研修事業

1. 目的

年々深刻化する児童虐待に加え、子どもに関する問題は複雑・多様化している。子どもがおかれた現状を市民一人ひとりが理解し、適切に対応できる力量を高めること、また、当事者を支援する地域の支援ネットワークづくりの強化が必要とされている。



今年度は児童虐待とヤングケアラーを取り上げ、支援者だけでなく一般市民もその問題を適切に認識し、日頃から関心を高めることができるよう啓発を図る。また、講座の参加者が児童虐待やヤングケアラーが生じる家庭の状況を理解し、予防や対応について自身ができることや地域が取り組むことを考え、それぞれの立場から支援の一步を踏み出す機会とする。

2. 事業内容

出雲市要保護児童対策地域協議会（事務局；出雲市役所子ども未来部）と島根県立大学出雲キャンパス（教員5名）の協働による「児童虐待防止と対応講座（全2回）」の企画・運営を行った。対象は、一般市民、保健医療福祉関係者、教育関係者、行政関係者、民生委員、学生である。会場は、島根県立大学出雲キャンパスを使用した。

3. 事業実施状況

表 プログラム概要と参加者数

	第1回	第2回
日時	2023年12月16日（土）13:30～16:00	2024年1月21日（日）10:00～12:00
テーマ	児童虐待を防ぐために私たちにできること	ヤングケアラーの現状を知る
内容	<p>【講演】「虐待の淵を生き抜いて ～人にも自分にも当たらない社会をめざして～」</p> <p>・講師：島田 妙子 氏 （一般財団法人児童虐待防止機構 オレンジCAPO 理事長）</p> 	<p>【講演】「ヤングケアラーの現状と課題」</p> <p>・講師：斎藤 真緒 氏 （立命館大学産業社会学部 教授）</p> 
参加者数	99名	87名

4. 成果

4年ぶりに対面にて2回の研修会を計画実施した。その結果、各回約100名の参加があり、関心の高さがうかがえた。研修内容として、児童虐待の被虐待当事者を講師に招いたこと、現在国が力を入れて取り組んでいるヤングケアラーをテーマにしたことが、受講者の関心につながったと考える。児童虐待について継続して取り組むことで、地域における児童虐待防止に対する意識向上の一助となっていると評価する。

5. 課題

- 1) 一般住民を対象に児童虐待に対する意識啓発を目的とする研修会の企画を検討し、テーマ、広報活動の強化をしていく。
- 2) 講義形式だけでなく、地域の課題を具体的に話し合うような演習型の研修形態を検討する。
- 3) 講師はリモート形式、受講生は集合型とリモート型が選べるなど多様なスタイルでの研修会を検討する。

I. 看護研究力の向上(個別研究支援・看護)

1. 目的

研究テーマや必要とする支援内容に応じて指導教員をコーディネートし、立案された看護研究計画に基づき、個別的で継続した研究指導を行い、研究実施につなげる。

2. 事業内容

原則として「臨床看護研究計画書立案研修」を受け、研究計画が立案できており、実際に看護研究を行う予定の個人またはグループ(1課題)を対象とし、研究テーマや必要とする支援内容に応じて指導教員をコーディネートし、研究実施につなげる。

3. 事業実施状況

今年度、継続3件、新規2件の個別研究支援を行った。

4. 課題

各現場での本事業の認知度が低く、研究支援の申し込みに繋がっていないため、ホームページ等による積極的な事業のPRなど、効果的な周知方法の検討が必要である。

Ⅱ. 栄養に係る専門職の研究力の向上(個別研究支援・健康栄養)

1. 目的

管理栄養士・栄養士等の研究活動を支援することを目的に、研究に関する総合的な相談・支援を行う。相談内容に応じて、研究の個別指導、倫理審査等への支援に繋げる。

2. 事業内容

申請条件は特に設けず、病院、施設、行政、企業等の各現場で活動する管理栄養士・栄養士等の研究テーマや必要とする支援内容に応じて、個別の継続指導を行う。

3. 事業実施状況

今年度、新規の個別研究申し込みはなかった。

4. 課題

各現場での本事業の認知度が低く、研究支援の申し込みに繋がっていないため、ホームページ等による積極的な事業のPRや、効果的な周知方法の検討が必要である。

Ⅲ. 看護研究力の向上(共同研究・看護)

1. 目的

研究テーマに応じ、共同研究を行う教員をコーディネートして研究を推進する。

2. 事業内容

原則として、研究計画が立案できており、実際に研究を行う予定の個人またはグループ(1課題)が対象とし、研究テーマや必要とする支援内容に応じて指導教員をコーディネートし、研究実施につなげる。

3. 事業実施状況

今年度、新規の共同研究申し込みはなかった。

4. 課題

各現場での本事業の認知度が低く、研究支援の申し込みに繋がっていないため、ホームページ等による積極的な事業のPRや、効果的な周知方法、共同研究の可能性等についての検討が必要である。

IV. 栄養に係る専門職の研究力の向上(共同研究・健康栄養)

1. 目的

研究テーマに応じ、共同研究を行う教員をコーディネートして研究を推進する。

2. 事業内容

病院、施設、行政、企業等の各現場で活動する管理栄養士・栄養士の研究ニーズに応じ、教員が研究活動に参画する。

3. 事業実施状況

今年度は継続指導 1 件の共同研究を実施し、来年度も継続予定である。

4. 課題

共同研究の申し込みが少ないことから、本事業を周知することや共同研究の可能性等について検討が必要である。

I. 履修証明プログラム

1. 目的

大学が集積している知を活かして、看護栄養学部（看護学科・健康栄養学科）、研究科、別科、看護栄養交流センター等が構築した履修証明プログラム（60 時間以上）を周知し、キャリアアップを志向する受講者の学習支援を行う。

2. 事業内容

社会人を対象とし、大学等の教育・研究資源を活かし一定の教育計画の下に編成された、体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムを構築し、社会人等の多様なニーズに応じた様々な学習機会を提供する。プログラム修了者に対しては、大学から履修証明書を交付する。

3. 事業実施状況

履修証明プログラム制度は、今年度秋季から開始した。①「食品の機能分析の活用及び研究・実践プログラム」、②「地域精神看護キャリアアッププログラム」について受講生を募集し、1名が①のプログラムを受講開始している。

4. 課題

今年度は初年度ということで、看護学研究科主体のプログラムからスタートしたが、次年度以降は看護栄養交流センター独自のプログラムの編成や、学部や別科主体のプログラム等も進めたいと考える。併せて積極的な事業のPRなど、効果的な周知を行っていく。

プロジェクト名：保健・医療・福祉機関等との連携

I. 保健・医療・福祉機関等への講師派遣

1. 目的

病院等からの依頼に応じ、本学教員のもつ専門的知識や技術及び研究成果である「知」を提供する。

2. 事業内容

保健・医療・福祉機関等への講師派遣依頼に対する対応および講師の調整

3. 事業実施状況および成果

2023年度の保健・医療・福祉機関への講師派遣の実施状況一覧を表に示した。

2023年度の講師派遣の実績は65件であった。依頼元種別をみると保健機関が1件（2022年度1件）、医療機関18件（2022年度19件）、職能団体26件（2022年度27件）、その他20件（2022年度17件）で、Web等の活用により実施方法が多様化している。

4. 課題

講師派遣依頼は、ここ3年コロナ禍においてオンライン開催へのニーズが高まっていたが、今年度はコロナ前の状況に徐々に戻ってきていることから、教育研究活動とのバランスが課題である。

講師派遣実施状況一覧

依頼元種別	実施日	依頼元	内容	担当者
1 保健機関	4月1日	島根県出雲保健所	出雲圏域における食育推進に関する課題を整理し関係機関との連携体制の充実に向けた意見交換	中畑典子講師
2 医療機関	5月1日	島根県済生会 江津総合病院	看護研究指導	平井由佳准教授
3 医療機関	5月1日	島根県済生会 江津総合病院	看護研究指導	高橋梢子准教授
4 医療機関	5月18日	松江医療センター	看護研修 講師	高橋梢子准教授
5 医療機関	5月22日	島根県立中央病院	臨床実習指導者研修 講師	森山美香教授
6 医療機関	5月30日	浜田医療センター	看護研究 講師	川瀬淑子准教授
7 医療機関	6月12日	出雲市立総合医療センター	看護研究研修会 講師	佐藤美紀子講師
8 医療機関	6月30日	島根県立中央病院	看護研究計画書・看護研究論文指導	岡安誠子教授
9 医療機関	9月11日	島根県立中央病院	看護研修 講師	高橋梢子准教授
10 医療機関	10月6日	島根県立中央病院	看護研究計画書・看護研究論文指導	岡安誠子教授
11 医療機関	11月14日	松江医療センター	看護研修 講師	平井由佳准教授
12 医療機関	11月14日	松江医療センター	看護研修 講師	濱村美和子准教授
13 医療機関	11月14日	松江赤十字病院	看護研修 講師	松本玄智江准教授
14 医療機関	11月21日	松江医療センター	看護研修 講師	高橋梢子准教授
15 医療機関	12月15日	島根県立こころの医療センター	看護研修 講師	松谷ひろみ講師

16	医療機関	12月15日	島根県立こころの医療センター	看護研修 講師	日野雅洋助教
17	医療機関	1月20日	隠岐広域連合立隠岐病院	看護研究指導 講師	永井真寿美講師
18	医療機関	2月27日	島根県立中央病院	看護研修 講師	岡安誠子教授
19	医療機関	3月7日	松江医療センター	看護研修 講師	高橋梢子准教授
20	職能団体	6月1日～	島根県助産師会	パースディプロジェクト	石原愛弓助教
21	職能団体	6月1日～	島根県助産師会	パースディプロジェクト	植田恵助教
22	職能団体	6月17日	島根県看護協会	看護師職能交流集会 講師	高橋梢子准教授
23	職能団体	8月17日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	川瀬淑子准教授
24	職能団体	8月17日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	高橋梢子准教授
25	職能団体	8月17日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	平井由佳准教授
26	職能団体	8月17日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	濱村美和子准教授
27	職能団体	8月18日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	大塚美樹教授
28	職能団体	8月18日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	松谷ひろみ講師
29	職能団体	8月18日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	佐藤美紀子講師
30	職能団体	8月18日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	荒木さおり助教
31	職能団体	8月18日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	日野雅洋助教
32	職能団体	8月19日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	松本祐香助教
33	職能団体	8月20日	島根県臨床検査技師会	タスクシフト研修会 講師	阿川啓子准教授
34	職能団体	8月20日	島根県臨床検査技師会	タスクシフト研修会 講師	園山純代助教
35	職能団体	8月29日	島根県看護協会	教育担当者研修会 講師	岡安誠子教授
36	職能団体	9月4日	島根県看護協会	教育担当者研修会 講師	高橋梢子准教授
37	職能団体	10月15日	島根県栄養士会	管理栄養士・栄養士対象生涯教育研修会 講師	直良博之教授
38	職能団体	10月16日	日本精神科看護協会	看護研究論文推薦会議	大森眞澄教授
39	職能団体	10月28日	島根県看護協会	動画に関する研修会 講師	高橋梢子准教授
40	職能団体	10月28日	島根県看護協会	新人助産師集合研修 講師	濱村美和子准教授
41	職能団体	12月23日	島根県看護協会	外来における在宅療養支援能力向上のための研修 講師	高橋梢子准教授
42	職能団体	1月28日	島根臨床検査技師会	タスクシフト研修会 講師	森山美香教授
43	職能団体	1月28日	島根臨床検査技師会	タスクシフト研修会 講師	阿川啓子准教授
44	職能団体	1月28日	島根臨床検査技師会	タスクシフト研修会 講師	平井由佳准教授
45	職能団体	3月9日	島根県看護協会	新卒等訪問看護師育成事業報告会 講師	加藤典子准教授
46	その他	4月1日	岡山大学	研究会 講師	中畑典子講師
47	その他	5月23日	出雲市	食のボランティア連絡協議会研修会 講師	中畑典子講師
48	その他	5月31日	東京純心大学	科研費説明会 講師	石橋照子教授
49	その他	7月11日	J Aしまね出雲地区本部ふれあい福祉課	やすらぎ会高齢者リーダー養成研修 講師	荒井恵美子講師
50	その他	7月19日	法政大学	医療的ケア児の社会課題解決2 ゲスト講師	阿川啓子准教授

51	その他	7月25日	島根県教育センター	新規採用養護教諭研修 講師	渡邊克俊講師
52	その他	7月25日	島根県教育センター	新規採用養護教諭研修 講師	佐藤基講師
53	その他	7月28日	介護労働安定センター	認知症研修 講師	荒木さおり助教
54	その他	8月8日	益田ヘルスケア推進協会	研修会 講師	中畑典子講師
55	その他	9月29日	西南女学院大学	認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修 講師	石橋照子教授
56	その他	10月7日	広島県産業保健研究会	産業看護について 講演講師	落合のり子准教授
57	その他	11月29日	鳥取大学	地域・精神看護学特別セミナー 講師	阿川啓子准教授
58	その他	12月12日	介護労働安定センター	緊急時の対応研修会 講師	加藤典子准教授
59	その他	1月22日	雲南市	メンタルヘルス研修 講師	大森真澄教授
60	その他	1月22日	雲南市	メンタルヘルス研修 講師	澤幸子准教授
61	その他	1月28日	島根大学	地域保健活動に従事する保健師等の専門職を対象とした研修会 講師	小川智子講師
62	その他	2月5日	地域・教育魅力化プラットフォーム	高校生の学びにつながる質問やフィードバック、アドバイスを送る サポーター	井上千晶教授
63	その他	2月5日	地域・教育魅力化プラットフォーム	高校生の学びにつながる質問やフィードバック、アドバイスを送る サポーター	中川忠彦講師
64	その他	2月14日	介護労働安定センター	老化と認知症の理解研修会 講師	荒木さおり助教
65	その他	3月22日	ヘルスサイエンスセンター島根	職員向けの一次救命措置講習 講師	渡邊克俊講師

プロジェクト名：生涯学習

I. 公開講座

1. 目的

本学がもっている専門的、総合的な教育・研究機能を広く社会に公開することにより、健康に関する知識・技術及び一般的教養を身につけるための学習の機会を社会人等に広く提供する。

2. 事業内容

公開講座は4講座、いずれも健康市民大学は10講座を開講した。昨年度はオンデマンド配信であったが、今年度は新型コロナウイルスが第5類に移行したことに伴い、対面で開催できた。

3. 事業実施状況（表1および表2参照）

公開講座、いずれも健康市民大学の終了時にアンケートを実施した。

4. 成果

いずれも健康市民大学については、今年度から近隣5地区（四絡、高浜、川跡、鳶巣、国富）のコミュニティセンターに受講者募集チラシの回覧を依頼した結果、24名の参加があった。20名が7割以上出席して修了証の授与対象となった。受講者は、熱心に参加され、受講者のアンケートの満足度も高かった。

5. 課題

受講者募集チラシの配布が4月下旬で、申込期限までの期間が短かったので、4月早々に配布できるとよい。受講者の年代は、60～70歳代が中心であった。若い世代の参加を求めるとすれば、開催曜日や時間、講座内容の検討が必要である。次年度は、出雲市市民活動支援課や4月に開館する出雲市新体育館と連携し、充実を図りたい。

表1 2023年度公開講座実施状況

	開催日	講師	講座テーマ	出席者数
1	9月7日（木）	渡邊 克俊	災害に備える活動“災活”コロナ禍の避難所運営 ～じっくりHUG～	7
		平井 由佳		
		佐藤 基		
		松本 祐香		
		安部 史子		
2	①6月14日（水）	井上 千晶	お母さんと赤ちゃんのための出産前後のマタニティクラス ～心と体を温める講座～	①6
	②8月30日（水）	中谷 陽子	①心と体を温めておなかの赤ちゃんと一緒にリラックス	②4
	③-1 11月22日（水）	石原 愛弓	②心と体を温めて分娩中の陣痛と上手に付き合うリラックス法	③-1 14
	③-2 11月29日（水）		③心と体を温めるベビーマッサージ（2回）	③-2 17
3	6月22日（木）	園山 純代	いきかたカフェ	7
4	9月15日（金）	松本亥智江	アロマで心と体のリフレッシュ Part.15	17

表2 2023年度いずも健康市民大学実施状況 受講者24名

回	開催日	講師	講座テーマ	出席者数
第1回	5月18日(木)	副学長	開講式	18
		石橋 照子	心健やかな毎日を送るためのリラクゼーション法	
第2回	6月20日(火)	荒井恵美子	嘔むこと、飲み込むことが難しい高齢者の食事	21
第3回	6月29日(木)	荒木さおり	認知症 早期発見と予防のヒント!	21
第4回	7月13日(木)	原田 永勝	食と健康にかかわる最近のトピックス パート1	18
		中川 忠彦		
第5回	7月24日(月)	直良 博之	食と健康にかかわる最近のトピックス パート2	17
		川谷真由美		
		石田千津恵		
第6回	9月7日(木)	渡邊 克俊	災害に備える活動“災活” コロナ禍の避難所運営～じっくりHUG～	20
		平井 由佳		
		佐藤 基		
		松本 祐香		
		安部 史子		
第7回	9月14日(木)	籠橋有紀子	心理と食の関係 パート4 ～美味しく感じる環境とは～	18
第8回	10月26日(木)	澤 幸子	食べて、動いて、フレイル予防!	21
第9回	11月9日(木)	加藤 典子	住み慣れた地域で暮らしていくために知っておきたいこと	19
第10回	12月7日(木)	中畑 典子	お雑煮で日本を旅しよう “一足先にお正月気分” パート3	15
		看護栄養交流センター長 梶谷みゆき	閉講式	

II. 地域、団体主催による出前講座

1. 目的

本学の専門的、総合的な教育・研究機能を幅広く社会に公開するため、地域や各種団体からの依頼に対応し、看護に関する知識・技術及び一般教養を身につける学習の機会を提供する。

2. 事業内容

看護栄養交流センター窓口への講師派遣依頼に対応し、希望テーマや教員、条件などを詳細に聞き取りした後で出雲キャンパス教員の中から適任者を選び、承諾を得た後、依頼者に紹介する。出前講座の実施状況について、講座担当教員に実施報告書の提出を求め、ホームページに出前講座の様子を掲載する。次年度に開講可能な一般向けテーマ登録の募集を行い、一覧をホームページに掲載する。

3. 事業実施状況

出雲キャンパスの教員が開催可能なテーマを一覧表にし、チラシを作成した。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ホームページへのテーマ一覧の公開は行わず、個別に問い合わせのあった団体等へ担当職員が講師派遣のコーディネートを行った。講師の派遣依頼は、2023年4月から2024年3月まで継続的にあり、看護栄養交流センター地域連携推進部にて出前講座の依頼を受け付けた。

2024年度の準備として、地域貢献登録カードにより教員から開催可能なテーマの事前登録を募り、提出されたテーマを一覧表にし、チラシ原稿を作成した。

4. 成果

2023年度は、31件の出前講座を実施した。依頼元は、地域のコミュニティセンターやNPO法人等があり、内容は、介護予防、ロコモ・フレイル予防、認知症予防、健康維持が多数を占めた。出前講座が地域や各種団体に対し、健康や看護・栄養に関する知識や技術、一般教養を学ぶ機会として期待されている状況がうかがえる。

5. 課題

新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことから、昨年度と比較し講座の開催数が増加した。今後も講座開催のニーズが増えると考えられることから、出前講座を積極的に利用していただけるよう、ホームページへのテーマ一覧の掲載などにより周知する必要がある。

表5 2023年度 地域連携推進部 出前講座実施一覧

No.	教員名	実施日		依頼元	内容
		月	日		
1	井上 千晶	2	5	(一財) 地域・教育魅力化プラットフォーム	しまね探究フェスタ 2023 におけるサポーター
2	今中 美栄	8	10	安来市私立保育連盟	安来市私立保育連盟加盟園職員研修講師
3	大森 眞澄	1	22	雲南市	職員対象のメンタルヘルス研修講師
4	落合 のり子	10	7	広島県産業保健研究会	広島県産業保健研究会会員研修講師
5	加藤 典子	12	12	(公財) 介護労働安定センター島根支部	「緊急時の対応」研修講師
6	澤 幸子	1	22	雲南市	職員対象のメンタルヘルス研修講師
7	荒井 恵美子	7	11	J Aしまね出雲地区本部	高齢者対策リーダー養成研修会講師
8	祝原 あゆみ	12	7	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
9	祝原 あゆみ	12	11	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
10	小川 智子	1	29	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
11	小川 智子	3	7	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師

12	加藤 さゆり	12	3	出雲市	出雲市生涯学習講座講師
13	加藤 さゆり	3	21	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
14	加藤 さゆり	3	25	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
15	中川 忠彦	2	5	(一財) 地域・教育魅力化プラットフォーム	しまね探究フェスタ 2023 におけるサポーター
16	中畑 典子	5	23	出雲市	食のボランティア連絡協議会研修会講師
17	中畑 典子	8	8	(一社) 益田ヘルスケア推進協会	栄養ワンダー2023「間食のすすめ」講師
18	中畑 典子	8	9	(一社) 益田ヘルスケア推進協会	栄養ワンダー2023「間食のすすめ」講師
19	松谷 ひろみ	12	14	まつえ市民大学運営協議会	まつえ市民大学「いきいき健康コース」「いきいきライフコース」講師
20	渡邊 克俊	8	19	川跡自治協会	防災講演会講師
21	渡邊 克俊	11	11	神門クラブ	防災対策についての講演講師
22	荒木 さおり	5	15	大社コミュニティセンター	「回想法」についての講義, 脳トレ
23	荒木 さおり	1	18	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
24	荒木 さおり	1	22	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
25	荒木 さおり	1	28	灘分地区社会福祉協議会	認知症講演会講師
26	荒木 さおり	2	18	西田地区社会福祉協議会	軽度認知障害についての講演講師
27	荒木 さおり	3	8	鰯淵地区社会福祉協議会	認知症予防についての講演講師
28	荒木 さおり	3	11	社会福祉法人隠岐の島町社会福祉協議会	認知症をテーマとしたサロンのつどいの講師
29	板持 智之	10	11	すこやかクラブ	セラバンド体操教室講師
30	板持 智之	10	31	東地区社会福祉協議会	セラバンド体操教室講師
31	板持 智之	2	9	灘分地区社会福祉協議会	セラバンド体操教室講師

Ⅲ. ぎんざんテレビ出前講座

1. 目的

石見銀山テレビ放送が放映する出前講座を通して、島根県立大学教員が、地域住民が健やかな生活を送るために役立つ幅広い知識を普及することにより、地域に貢献する。

2. 事業内容

本事業は2010年から開始された。収録担当教員は出前講座の台本またはPPTスライド資料を作成し、それらをもとに収録を行う。収録後テレビ局で編集されたデータが大学に送付されるので、収録担当教員は内容を確認し修正があればテレビ局にその旨を伝える。収録担当教員の承諾後講座が放映となる。放映時間は約5分である。

3. 事業実施状況

表 ぎんざんテレビ出前講座担当一覧

講座タイトル	担当教員	収録日	収録場所
石鹸を使った手洗い・消毒ジェルの正しい使い方	川瀬 淑子	5月31日	大学
骨髄バンクの登録等について 〈サークル活動報告(あかえんぴつくん)〉	渡邊 克俊 小田 香澄	4月12日	大学
家庭血圧測定について	佐藤 美紀子	4月24日	大学
調理中の食中毒予防(肉料理を例に)	石田 千津恵	4月26日	大学

4. 成果

表に示す通り、今年度は看護学科3講座、健康栄養学科1講座の計4講座を放映した。前年度の終わりから年度初めに収録予定を立て、新型コロナウイルス感染症の影響も少なく概ね計画通りに実施した。収録日と場所は担当教員の希望に沿って収録することができた。本講座は、ぎんざんテレビ放送エリアの病院、薬局、金融機関、役所の待合でも放映されており、年間を通じてかなりの回数が放送された。昨年度に引き続き学生の出演機会があり、とても好評である。

5. 課題

次年度以降も引き続き感染対策を行いながら、地域のニーズに合わせた講座の内容や数を検討していく。また、情報配信に配慮し可能な範囲で学生との共同番組を計画し、より学生を身近に感じてもらえるような番組作りを検討していく。

IV. シニア・ジュニアキャンパスツアー

1. 目的

小中学生のための大学の見学依頼に応じる。

2. 事業内容

小学校からの依頼に対して、対象児童に合わせた大学の説明や見学を行う。

3. 事業実施状況

日時：2023年6月5日（月）9:20～10:20

目的：町探検（出雲キャンパスではどんな勉強をしているか、どんな設備があるか）

対象：出雲市立北陽小学校2年生

参加者：28名

実施内容：①新生児人形を抱っこする体験 ②看護学生の演習の見学 ③調理実習室の見学

4. 成果

看護学科では、新生児人形を抱っこする体験や、母性看護学で妊婦計測の演習授業をしている様子を見学をした。健康栄養学科では、大型の調理器具を触ったり、調理実習室の見学をした。看護学科や健康栄養学科の実習室の見学を通して、「赤ちゃんを抱っこするのは怖いけど楽しかった」「私も大きなしゃもじを触ってみたい」などの発言があった。今年は、感染対策をしながら、グループで体験に参加したり見学ができたので、目的に沿ったツアーとなったことが窺えた。スケジュールについては、移動の時間や質疑応答の時間を設け、予定通り実施することができた。最後の質疑応答では、緊張もほぐれ「勉強は何時までするのですか」「学生はご飯をどこで食べるのですか」など、児童から多数の質問が挙がった。

5. 課題

先方からの依頼が3週間前にあり、準備の調整にゆとりがなかった。毎年実施するのであれば、4月はじめに実施予定だけでも連絡をもらえると良い。



プロジェクト名:教育機関との連携

I. 小中高校等出前講義

1. 目的

小中高校生のための保健医療福祉に関する講義の依頼に応じる。

2. 事業内容

センターあるいは教員に小中高校から講師依頼があった場合、講師を調整し講義を実施した。

3. 事業実施状況

表1 2023年度 小中高校等出前講義実施一覧

No.	教員名	実施日		依頼元	内容
		月	日		
1	今中 美栄	10	16	島根県立浜田高等学校定時制・通信制支援協議会	食育講演会 講師
2	大森 眞澄	9	14	松江西高等学校	介護職員初任者研修講座 講師
3	岡安 誠子	7	27	島根県立出雲高等学校	山陰探究サミット審査員
4	岡安 誠子	11	14	島根県立大東高等学校	模擬講義 講師
5	小田 美紀子	6	23	出雲市立古志幼稚園	保護者対象の講演会 講師
6	小田 美紀子	11	16	益田市立横田中学校	睡眠の大切さに関する講演 講師
7	籠橋 有紀子	7	27	島根県立出雲高等学校	山陰探究サミット審査員
8	籠橋 有紀子	9	1～	島根県立出雲高等学校	課題研究指導・助言
9	狩野 鈴子	6	22	島根県立出雲農林高等学校	性に関する講演会 講師
10	狩野 鈴子	11	9	出雲市立第二中学校	性に関する講演会 講師
11	狩野 鈴子	11	14	島根県立出雲工業高等学校	性に関する講演会 講師
12	狩野 鈴子	11	27	出雲市立西野小学校	「命の尊さ性・生」講演会 講師
13	狩野 鈴子	1	17	出雲市立神西小学校	「思春期にあらわれる心と体の変化」講師
14	加納 尚之	9	1～	島根県立出雲高等学校	課題研究指導・助言
15	高橋 恵美子	12	4	出雲市立佐田中学校	健康教育講演会 講師
16	直良 博之	5	30	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
17	直良 博之	9	12	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
18	直良 博之	1	20	出雲市立佐田中学校	PTA講演会 講師
19	阿川 啓子	7	25	島根県立大東高等学校	総合的な探究の時間 講師
20	阿川 啓子	11	9	島根県立松江南高等学校	課題研究に対する指導・助言
21	落合 のり子	7	21	島根県立松江南高等学校	「南高アクションデー アクション・クエスト2023」での指導・助言
22	澤 幸子	3	6	米子北高等学校	模擬講義 講師
23	高橋 梢子	11	9	島根県立出雲高等学校	出雲高校プロフェッショナルセミナー 講師
24	高橋 梢子	11	16	島根県立三刀屋高等学校	学校訪問における講義
25	高橋 梢子	12	7	島根県立出雲高等学校	出雲高校プロフェッショナルセミナー 講師

26	中川 忠彦	3	15	島根県立出雲高等学校	出雲高校プロフェッショナルセミナー 講師
27	松谷 ひろみ	7	12	島根県教育庁保健体育課	高校生を対象とした看護講座 講師
28	吉松 恵子	3	6	米子北高等学校	模擬講義 講師
29	渡邊 克俊	3	15	島根県立出雲高等学校	出雲高校プロフェッショナルセミナー 講師
30	安部 史子	11	9	島根県立出雲高等学校	出雲高校プロフェッショナルセミナー 講師
31	安部 史子	12	7	島根県立出雲高等学校	出雲高校プロフェッショナルセミナー 講師
32	荒木 さおり	9	11	松江西高等学校	介護職員初任者研修講座 講師
33	石田 千津恵	5	30	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
34	石田 千津恵	9	12	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
35	石田 千津恵	10	20	松江市立皆美が丘女子高等学校	総合的な探究の時間講話 講師
36	石原 愛弓	5	30	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
37	石原 愛弓	7	26	中部保育所	バースデイプロジェクト 講師
38	石原 愛弓	8	3	浜山あまつひ保育園	バースデイプロジェクト 講師
39	石原 愛弓	9	5	出雲市立中部幼稚園	バースデイプロジェクト 講師
40	石原 愛弓	9	6	出雲市立直江保育所	バースデイプロジェクト 講師
41	石原 愛弓	9	12	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
42	石原 愛弓	9	26	出雲市立上津幼稚園	バースデイプロジェクト 講師
43	石原 愛弓	9	26	雲南市立寺領小学校	バースデイプロジェクト 講師
44	石原 愛弓	9	29	雲南市立斐伊小学校	バースデイプロジェクト 講師
45	石原 愛弓	10	19	奥出雲町立布勢小学校	バースデイプロジェクト 講師
46	石原 愛弓	11	14	出雲市立さくら小学校	バースデイプロジェクト 講師
47	石原 愛弓	11	16	あすなる第2保育園	バースデイプロジェクト 講師
48	石原 愛弓	11	21	出雲市立長浜小学校	バースデイプロジェクト 講師
49	石原 愛弓	12	16	たちばな保育園	バースデイプロジェクト 講師
50	石原 愛弓	2	21	雲南市立西小学校	生の楽習講座 講師
51	植田 恵	8	23	浜山保育園	バースデイプロジェクト 講師
52	植田 恵	8	24	かなで保育園	バースデイプロジェクト 講師
53	植田 恵	11	16	あすなる第2保育園	バースデイプロジェクト 講師
54	植田 恵	12	5	出雲市立川跡幼稚園	バースデイプロジェクト 講師
55	植田 恵	12	13	出雲市立西野幼稚園	バースデイプロジェクト 講師
56	植田 恵	12	20	出西保育園	バースデイプロジェクト 講師
57	植田 恵	1	11	出雲市立荘原幼稚園	バースデイプロジェクト 講師
58	植田 恵	1	18	出雲聖園マリア園	バースデイプロジェクト 講師
59	植田 恵	1	19	出雲市立塩冶小学校	バースデイプロジェクト 講師
60	植田 恵	1	23	出雲市立塩冶幼稚園	バースデイプロジェクト 講師
61	植田 恵	1	23	出雲市立出東小学校	バースデイプロジェクト 講師
62	植田 恵	1	25	出雲市立高松幼稚園	バースデイプロジェクト 講師

63	植田 恵	2	9	おおつか保育園	バースデイプロジェクト 講師
64	園山 純代	9	7	出雲市立第三中学校	福祉体験講座における看護体験 講師
65	日野 雅洋	5	30	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
66	日野 雅洋	9	12	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
67	松岡 紗嘉	9	7	出雲市立第三中学校	福祉体験講座における看護体験 講師
68	中嶋 彩稀	10	16	島根県立浜田高等学校定時 制・通信制支援協議会	食育講演会 講師

4. 成果と課題

今年度は、高大連携による出前講座が 33 件あり、小中学校への出前講座は 16 件、幼稚園・保育園への出前講座が 19 件あった。新型コロナウイルスが 5 類感染症に移行したことから、昨年度より依頼が増加した。

II. 小中学校体験学習

1. 目的

小中学生のための保健医療福祉に関する体験学習の依頼に応じる。

2. 事業内容

- 1) 高齢者体験：高齢者の目の見え方や指先の動きを体験し、特徴を学ぶことができる。
- 2) 車椅子体験：路面による乗り心地の違いやその時の気持ちを体験できる。
段差や狭い通路などの障害物があっても安全に搬送するための介助を体験できる。

3. 事業実施状況

日時：2023年6月26日（月） 9:30～11:30

対象：出雲市立神西小学校3年生

参加者：26名

4. 成果

- ・対象学年が小学校3年生であることを考慮し、例年実施しているブラインドウォークをやめ、高齢者体験と車椅子体験の2つに体験を絞った結果、時間にゆとりをもって実施できた。
- ・高齢者体験や、車椅子利用者の体験と共に、介助の体験をすることを通して、児童からは、「おばあちゃんは目が見えにくかったり物がつかみにくかったりするのに料理をしてくれてありがたいと思った」「ガタガタした道は怖い」などの感想が聞かれた。
- ・3号館学生ラウンジを拠点としたことは、冷房設備もあり椅子に着席できること、トイレも近いことから、児童の休憩（飲水・トイレ）や記録の場として適切であった。
- ・高齢者体験時に1名気分不快（頭痛）を訴える児童がいたが、保健室で休息をとり、他の児童と一緒にバスで帰校した。

5. 課題

- ・小学生の体験をサポートするには、多くの教員が必要となる。高齢者体験では、1つの体験に1名の教員がつき、計4名体制であったが、2つの体験をまとめて担当することも可能である。
- ・車椅子体験では、小学生は3人一組で体験したが、観察者役の児童が手持無沙汰となっていた。観察者役をやめて利用者役と介助者役のみとし、車椅子2台4名を1教員が担当することも可能である。
- ・小学3年生が集中して体験できるような時間配分の工夫が必要である。小学校での授業時間に合わせ、体験を30分程度、説明や振り返りの時間15分程度とし、1体験45分の計画にすると、集中して取り組める。



Ⅱ－1. 受託研究

1. 目的

自治体、関係団体、企業等からの受託研究についての依頼に対し、調整し、実施につなげる。

2. 事業内容

2023年度は、以下の研究を受託し、実施した。

表 1 2023年度受託研究実施一覧

	委託者	研究題目	研究者代表者	受託金額（円）
1	島根県	ライフスタイルに適応した生産・販売を目的とする 島根米の特性の見える化	籠橋 有紀子 教授	500,000
2	島根県	健康な食環境づくり事業	中畑 典子 講師	351,670
3	株式会社しちだ・教育研究所	七田式いきいき脳開発プログラム事業	梶谷 みゆき 教授	135,626
4	浜田市共同研究	浜田市における孤立（孤独）死防止対策について	平井 由佳 准教授	371,728

3. 成果及び課題

昨年度同様、実施件数は4件だった。

今後も看護栄養交流センターのホームページの充実に努め、委託希望があれば対応を行う。

I. 包括協定締結自治体との連携

1. 目的

包括協定を締結している自治体との連携を図ることにより、地域社会のニーズや課題に対応する事業を協働で企画・実施する。

2. 事業内容

連携協定に基づく具体的事業について、個別に協議しながら取り組みを展開する。自治体との協力について、具現化のために自治体側の意向調査や学内での聞き取り等を行い、合意に至った事業から順次実施する。

3. 事業実施状況

- 1) 出雲市と協働で灘分地区介護予防教室事業を行った。
- 2) 出雲子育て支援センター「はぐはぐ」を出雲キャンパス内に開設中。
- 3) 出雲市からの受託事業として、児童虐待防止推進研修事業を4年ぶりに実施。
- 4) 関係自治体において、島根の地域医療フィールドワークや臨地実習、保健師インターンシップ等の受入れの協力を得た。

4. 成果

出雲市との協働事業については、「Ⅲ. 出雲市 児童虐待防止推進研修事業」および「Ⅱ-2. 共同事業：出雲市 灘分地区介護予防教室事業」参照。

5. 課題

出雲市と協働で実施している介護予防教室事業については、これまで数年間継続して実施している事業であり、認知度も上がり、成果も現れている。

コロナ禍において、なかなか自治体との連携事業も実施が困難な状況であったが、次年度以降は以前のように積極的な活動を展開したい。

II. 共同事業：出雲市 灘分地区介護予防教室事業（笑顔で集まろう会）

1. 目的

出雲市と島根県立大学出雲キャンパスとの協働により、高齢者の認知機能の維持改善や体力作りのみでなく、活動を通して地域での活動に関わる人材の育成、地域のネットワークづくりを図ることである。

2. 事業内容

期間：2023年5月13日～2024年3月1日

時間：9:30～11:30

業務受託の場所：灘分地区（灘分コミュニティーセンター）

関係機関：出雲市健康福祉部医療介護連携課

出雲キャンパス事業担当者：3名（梶谷みゆき、松本亥智江、太田裕介）

3. 事業実施状況

1) 事前調査・事後調査 各1回 各16名

教室開始時と終了時に体力測定（握力・歩行速度）、体組成（身長、体重、BIMなど）、骨密度、栄養状態（上腕周囲長・下腿周囲長）、社会関連指標、老研式活動能力指標、JST版活動量力指標、認知機能（HDS-R、MMST）などを測定した。

2) 介護予防教室 13回 毎回13～16名の参加

毎回の教室は、自己血圧測定、脳トレ、出雲いきいき体操、メインテーマ、終わりの会（懐かしの歌、出雲市からのお知らせなど）で構成した。メインテーマは、ミニ講話、お楽しみ企画を組み合わせ合わせて計画した。また、地元で活躍されている講師を招いた（おなじみ先生）企画を1回実施した。

4. 成果及び課題

灘分地区の65歳以上の高齢者にコミュニティセンターの広報を通して参加者募集を行った。その結果18名の参加登録者があり、継続的に参加された方は16名であった。また、自己血圧測定やメインテーマについては希望を聞きながら設定したり、出雲いきいき体操では参加者に体操リーダーになってもらったりすることで参加者の自主性を引き出すことができたのではないと思われる。また、教室の後片付けや参加者同士が気持ちよく参加できるようにお互いに声が掛け合うなどの行動が増えていき、仲間同士の結束力につながったのではないと思われる。初回のメインテーマでスマートフォンについてのミニ講義を計画し、その場でLINEグループを作成することができ、参加者同士の連絡や、お知らせ、欠席の連絡などに活用することができた。教室終了後には、参加された多くの方が「笑顔で集まろう会」（灘分地区の教室の名称）として自主活動に継続参加されることとなった。今後も参加者の健康を支える活動になることが期待できる。

COVID-19感染対策をしながらの教室開催であったが、幸い計画通り実施することができた。今後も参加者のニーズをとらえて、参加しやすい、また、参加してよかったと思ってもらえるような教室の企画運営をしていくことが課題である。



「簡単レンチンレシピ」（調理実習）講師：亀山良子教授



「ノルディックウォーキング」講師：黒田正子氏

Ⅲ. NPO 法人・関係団体・企業との連携

1. 目的

NPO 法人・関係団体・企業との連携を図る。

2. 事業内容

NPO 法人・関係団体・企業から申し出のあった研究テーマや必要とする連携・支援内容に応じて各組織のニーズに対して本学のシーズとのマッチングを図り、教育研究開発等における地域との産学官連携により共同事業を行う。

3. 事業実施状況

いずも産業未来博については、別事業との日程調整が困難となったため、今年度の出展は見合わせた。また、その他の産学官連携活動については、商品開発に関する新規 1 件の問い合わせがあった。

4. 成果

問い合わせのあった事業に関し、関係企業等との調整を行い、商品開発から販売へ繋がった。

5. 課題

今年度の相談件数は少なかったが、問い合わせ、相談を受けた事案について、対応できる教員に限られることなどから、具体的な取組になかなか繋がらないことが課題である。今後、産学官連携の方法についての検討も必要であるとする。

IV. 各種審議会・委員会等への参加

1. 目的・事業内容

教職員が各種審議会・委員等の委員活動を通して地域に貢献する。

2. 事業実施状況

2023年度は全体で93件の各種審議会、委員会等へ所属し、活動を行った。

内訳は、表1のとおりである。

表1 2023年度に教員が参加した審議会・委員会の内訳

	依頼元機関	件数
1	医療機関等	4件
2	教育機関等	6件
3	自治体等	38件
4	職能団体等	22件
5	その他	23件
	合計	93件

I. キャンパスモニター会議

1. 目的

本キャンパスに対する地域住民の理解と連携を深め、地域に開かれたキャンパスをめざす。そのために、近隣地域よりモニターを募集し、本キャンパスの運営や事業、安全確保について意見や批評、情報を求め、今後の活動に反映することを目的とする。

2. 事業内容

出雲在住・在勤の住民9名にキャンパスモニターを委嘱した。本キャンパスの年間行事（公開講座など）に案内し、キャンパスモニター会議の開催により、本キャンパスに対する理解を深めてもらう機会とした。会議では、キャンパスの教育研究活動、学生生活に関する活動、地域貢献活動、について説明し、学生生活を送る上での安心・安全の確保や地域との連携、地域貢献等に関する意見交換を行う場とした。

3. 事業実施状況

- 1) 開催日時：2024年2月15日（木）13:30～15:00
- 2) 参加者：キャンパスモニター8名、副学長、学部長、学生生活部長、事務部長、管理課長、学務課長、地域連携推進委員会委員長、地域連携推進室長、地域連携推進委員会委員3名、計19名

4. 成果

4年ぶりに対面で開催した本会議には、キャンパスモニター9名中8名の参加があった。看護栄養学部の教育、学生生活、地域貢献に関する説明は、パワーポイントや配布資料、動画を用いて行い、学生の様子がよくわかると好評であった。大学のさまざまな取り組みについて情報提供し、活発な意見交換の場となった。モニターの皆様には、今後も、引き続き授業公開や大学の行事を案内するとともに、大学に対して様々な意見や感想をいただき、地域により開かれた大学を目指していく。

5. 課題

キャンパスモニターの決定・通知からつわぶき祭等の各種行事までの期間が短く、モニターの方々が参加しにくい状況があった。大学からの各種行事の案内をゆとりをもってできるよう、4月の地域連携推進委員会でモニターを決定し、案内を早めに送付する。

Ⅱ. タウンミーティング（益田 高大社連携事業）

1. 目的

高校生に医療に携わる魅力を知ってもらうことを目的とし、①参加者が医療人になるプロセスがイメージできる、②参加者が医療人になった後の道がイメージできる、③病院スタッフが自分たちの仕事の意義が分かるの3つを目標に掲げ事業を行った。

2. 事業内容

「将来、人の『健康』に関わる仕事がしたいけえ」とイベント名を付け、益田医師会病院院長、島根県立大学学長の基調講演、専門職によるパネルディスカッション、高校生によるグループワークを高大社連携授業として実施した。

3. 事業実施状況

- 1) 日 時：2023年10月22日（日）13:00～16:00
- 2) 場 所：益田医師会病院
- 3) 参加者：高校生21名、県大生6名、一般参加者7名（保護者ほか）



4. 成果

回収されたアンケートからは、参加者の満足度も高く、目標も達成されたと考える。

5. 課題

当日のプログラムは時間が予定通り進まなかったが、調整しながら、全てのプログラムを終えることができた。保護者など大人の参加が多く、生徒がグループワークをやりにくかったかもしれない。今後は、全体の時間の調整、大人の関わり方の検討が必要である。

Ⅲ. 県立大学発 健康寿命延伸プロジェクト in ますだ（島根県栄養士会連携事業）

1. 目的

西部地域の高校生の管理栄養士への理解や関心を高める、健康栄養学科の知名度を上げることを目的に、高校生を巻き込んで、「健康寿命延伸プロジェクト 健康な食環境づくり事業」を西部地域で展開する。

2. 事業内容

昨年度までは、コロナ禍もあり島根県栄養士会が作成したリーフレットを西部地域の高校生を中心に配布することで本事業を展開してきた。今年度は、日本栄養士会が行っている栄養の日・栄養週間の栄養ワンダー2023として島根県栄養士会と連携して実施した。道の駅シルクウェイにちはらにて、高校生を含む一般の人を対象に、「ライフスタイルに合わせて間食を取り入れよう」をテーマにサンプル配布と食生活に関する聞き取りを実施した。また、県立大からは、道の駅に立ち寄った高校生または保護者に大学案内および管理栄養士の紹介チラシを配布した。

3. 事業実施状況

- 1) 日時：2024年8月6日（日）
- 2) 場所：道の駅シルクウェイにちはら
- 3) 参加者：島根県栄養士会3名、栄養士会益田地域会員10名、県立大1名



4. 成果

島根県栄養士会で用意したサンプル200袋と県立大の大学案内および管理栄養士の紹介チラシ18部を配布した。高校生の立ち寄りには少なく3名に渡し、中学生4名、小学生4名、年少年次1名、一般の方6名に配布した。

5. 課題

一般の方へのサンプル配布や食生活に関する聞き取りは多くの人に展開できた一方で、本事業の目的である高校生への配布は思ったほど多くはなかった。今年度は、栄養の日・栄養週間の栄養ワンダーを西部地域で展開できたが、今後も西部地域での開催が可能かどうかは島根県栄養士会へ確認する必要がある。また、より多くの高校生に参加してもらうためにも、事業内容や本学学生の参加等についても検討が必要である。

I. フォローアップ研修に関すること

1. 目的

それぞれの看護専門分野において、熟練した看護技術と知識を用いた水準の高い看護実践のできる認定看護師に必要なスキルアップを図る。

2. 事業内容

認定看護師のスキルアップに必要なフォローアップ研修のプロジェクト会議を開催し、修了生等との連絡調整を行いながら、研修の企画運営を行う。

3. 事業実施状況

1) フォローアップ研修に関するプロジェクト会議（対面・メール）を開催した。

フォローアップ研修メンバーと2023年度中の研修開催を目指し、緩和ケア・認知症看護認定看護師のスキルアップに必要な研修テーマの選定、企画案作成、開催時期について協議を行った。

2) 本課程修了生によるフォローアップ研修の企画に関するサポートを実施した。

4. 成果

2023年度中にフォローアップ研修を開催予定であったが、講師決定に至らず、さらに冬季の移動手段等の課題もあり、フォローアップ研修の開催は次年度に見送りとなった。

5. 課題

修了生が研修の企画・運営の一部を担う事も認定看護師に必要なスキルのひとつであると位置づけている。フォローアップ研修のニーズは確認できているが、過去のテーマとも照らして緩和ケア・認知症看護それぞれの領域に共通する課題の選定を慎重に行う必要がある。実践の場で看護の専門性とその質の維持・向上を目指していけるよう、また、修了生の企画・運営力の向上の機会となるようフォローアップ体制の整備・継続をしていく。県内外在住の修了生ができるだけ多く参加できるよう研修方法と開催時期を検討する必要がある。

I. 教育課程運営に関すること

1. 目的

感染管理分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる感染管理認定看護師を育成する教育課程を開講する。

2. 事業内容

島根県の委託を受け、感染管理認定看護師養成の教育課程運営会議を開催し、島根県や臨地実習施設等との連絡調整を行いながら、感染管理認定看護師に必要な教育課程の円滑な運営を行う。

3. 事業実施状況

1) 教育課程の開講と実施

開 講：2023年4月3日（月）～2024年3月29日（金）

時間数：共通科目 380時間

専門科目 認定看護分野専門科目 195時間・特定行為区分 61時間

演習・実習 195時間

総時間数 801時間

- | | |
|-------------------------|--------------|
| ・2023年4月6日（木） | 入学式 |
| ・2023年11月6日（月）～12月1日（金） | 臨地実習（感染管理分野） |
| ・2023年12月15日（金） | 事例発表会 |
| ・2024年1月9日（火）～2月20日（火） | 特定行為実習 |
| ・2024年3月28日（木） | 修了式 |



2) 運営会議を12回開催した（4月～3月）。

3) 臨地実習および特定行為実習に関する施設訪問（臨地実習：8施設、特定行為実習：14施設）を行った。また、臨地実習指導者会議を2回行った（10月6日、12月15日）。

- 4) 入試委員会を3回開催した(7月3日, 12月5日, 2月17日)。入学試験の方法協議及び合否判定を行った。
- 5) 教員会を1回開催した(3月11日)。
- 6) 看護職・医療機関を対象に認定看護師教育課程(B課程)・感染管理分野開講の周知と履修生募集を目的として, 入試ガイダンスを行った。
 - (1) 募集要項, リーフレット等の作成を行った。
 - (2) 県内の関係病院へ訪問した。
 - (3) ZOOMでガイダンスを開催した(8月1日, 9月19日)。
- 7) 入学試験の実施
 - (1) 一次募集
 - ・願書受付: 2023年11月1日(水)～10日(金)
 - ・入学試験: 2023年12月2日(土)
 - ・合格発表: 2023年12月6日(水)11名の応募者のうち11名の受験者があり, 11名の合格発表を行った。
 - (2) 二次募集
 - ・願書受付: 2024年1月29日(月)～2月5日(月)
 - ・入学試験: 2024年2月17日(土)
 - ・合格発表: 2024年2月19日(月)2名の応募者のうち2名の受験者があり, 2名の合格発表を行った。

4. 成果

認定看護師教育課程(B課程)・感染管理分野第1期生の17名(県内14名, 県外3名)を輩出した。県内外から多くの医師, 看護師, 行政関係者等に講師になっていただくことで, 相互に学び合う機会となった。

5. 課題

次年度も円滑で効果的な教育課程の遂行ができるように, 開講初年度の実績を活かしながら, 履修要項(シラバス), スケジュール等の見直しを行っていく。また, 臨地実習・特定行為実習においては, 実習要項, および, 実習記録用紙の見直しを行い, 実習指導者とのさらなる連携を図っていく必要がある。

今後は修了生が, 日本看護協会の認定審査を合格し, 資格取得ができるよう修了後のフォローアップを行っていくことが重要である。

Ⅲ. 資料

1. 事業に関する報道資料一覧

No.	掲載紙/発行日/掲載面	内容/実施日
1	山陰中央新報/4月7日/22面	感染管理認定看護師へ決意 島根県立大養成課程に19人
2	島根日日新聞/4月7日/1面	感染管理認定看護師養成へ 県立大出雲で県内初開講
3	島根日日新聞/4月28日/2面	看護職の人材育成へ県立大と県看護協会が協定
4	山陰中央新報/4月30日/25面	看護人材定着へ協定 島根県立大と県協会
5	山陰中央新報/5月9日/21面	動画で若者に呼びかけ 献血と骨髄ドナー協力を（あかえんぴつくん）
6	島根日日新聞/5月24日/2面	いずも健康市民大学が開講
7	山陰中央新報/6月8日/21面	手軽に免疫アップドリンク 島根県立大生開発 献血で提供へ（あかえんぴつくん）
8	島根日日新聞/6月9日/1面	免疫力アップに期待！県大生がドリンク考案（あかえんぴつくん）
9	山陰中央新報/10月23日/21面	医療職の魅力 高校生に県立大と益田の病院の交流会
10	山陰中央新報/1月7日/21面	島根からできる支援を 県立大生が募金活動（災害研究会）

島根県立大学出雲キャンパス看護栄養交流センター組織運営規程

平成 25 年 10 月 1 日
島根県立大学規程第 1 1 1 号

(趣旨)

第1条 この規程は、公立大学法人島根県立大学組織規則第 38 条に規定する、看護栄養交流センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、島根県内及び近隣地域の保健・医療・福祉の各施設、行政機関、教育機関等と連携し、保健師、助産師、看護師、管理栄養士、栄養士等の資質の向上に資する専門知識や技術の教授、研究活動に対する支援、研究成果等の情報収集及び発信を行うとともに、看護学・栄養学の教育研究活動を通して得られた成果を広く地域社会に還元することを目的とする。

(組織)

第3条 センターの目的を果たすため、センターに次の部を置く。

- (1) キャリア・研究支援部
- (2) 地域連携推進部
- (3) 認定看護師養成部

2 前項に規定する部にプロジェクトを配し、部の具体的な事業を展開する。

(職員)

第4条 センターは、出雲キャンパスに所属する全ての教職員を構成員とする。

2 センターに、センター長のほか次に掲げる職員を置く。

- (1) 前条第 1 項各号に掲げる部の部長（以下「部長」という。）
- (2) 前条第 2 項に規定するプロジェクトのプロジェクトリーダー（以下「プロジェクトリーダー」という。）

(部長)

第5条 部長は、第 3 条第 1 項各号の部の業務を掌理する。

2 部長は、出雲キャンパス教員の中から、学長がセンター長と協議の上、決定する。

3 任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(プロジェクトリーダー)

第6条 プロジェクトリーダーは、第 3 条第 2 項に規定するプロジェクトで展開する事業を推進する。

2 プロジェクトリーダーは、出雲キャンパス教員の中から、センター長が部長と協議の上、決定する。

3 任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(運営会議)

第7条 センターに、センター運営会議（以下「運営会議」という。）を置き、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの運営に関すること。
- (2) 事業計画の策定及び進行管理に関すること。
- (3) その他センターの運営に必要なこと。

2 運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 副学長
 - (2) 看護栄養学部長
 - (3) 看護学科長
 - (4) 健康栄養学科長
 - (5) 別科長
 - (6) センター長
 - (7) 部長
 - (8) 島根県立大学出雲キャンパス合同会議専門委員会規程別表 1 に規定する地域連携推進委員会委員
 - (9) 事務部長
 - (10) 管理課長
 - (11) 教務学生課長
 - (12) 事務部職員
- 3 運営会議はセンター長が招集し、センター長は議長となる。
 - 4 センター長に事故があるときは、センター長があらかじめ指名した者がその職務を代行する。
 - 5 運営会議は、構成員の2分の1以上の出席により成立し、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。
 - 6 議長は、運営会議の構成員以外の本学の教職員又は外部有識者を運営会議に出席させて説明を求め、又は意見を述べさせることができる。
(外部委員会)

第8条 センターの業務に関し、調査審議を行うため、外部委員会を置く。

- 2 外部委員会は、原則として毎年1回以上開催する。
- 3 外部委員会の委員（以下「外部委員」という。）は、出雲キャンパス運営委員会で選考し、学長が委嘱する。
- 4 外部委員は、10名以内とする。
- 5 外部委員会に関し必要な事項は、学長が別に定める。

第9条 この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成25年10月1日から施行する。
- 2 第5条第3項、第6条第3項の規定に関わらず、この規程の施行日に部長、プロジェクトリーダーとなった者の任期は、平成27年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年5月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

2023 年度 看護栄養交流センター成果報告書（第 5 号）

編集・発行 2024 年 3 月
島根県立大学出雲キャンパス 看護栄養交流センター
〒693-8550 島根県出雲市西林木町 151 番地
TEL 0853-20-0200 FAX 0853-20-0201
[https://izumo.u-shimane.ac.jp/community/izumo/
koryucenter/](https://izumo.u-shimane.ac.jp/community/izumo/koryucenter/)

編集担当者 梶谷 みゆき・澤田 仁美
制作・印刷 有限会社ナガサコ印刷

